

2019 年全国家計構造調査 家計収支に関する結果の概要(岡山県)

【全国家計構造調査とは】

2019 年全国家計構造調査は、家計における消費、所得、資産及び負債の実態を総合的に把握し、世帯の所得分析及び消費の水準、構造等を全国的及び地域別に明らかにすることを目的とする、総務省が行う基幹統計調査である。

1959 年（昭和 34 年）の第 1 回調査以来 5 年ごとに実施されてきた「全国消費実態調査」を全面的に見直して実施されたものであり、今回は通算で 13 回目の調査に当たる。

調査結果は、総務省において数回に分けて公表されることとなっており、1 回目の公表として 2 月下旬に家計収支に関する結果が公表された。

岡山県の結果の概要は次のとおり。

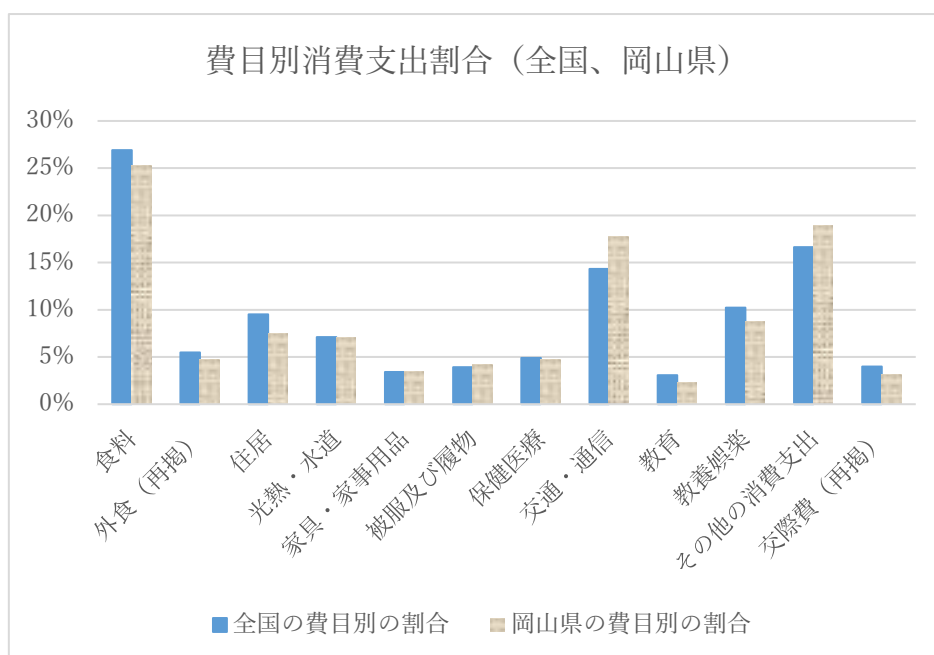
【結果の概要】

○全国との比較

支出割合で、全国より高いのは「交通・通信」など。

2019 年における総世帯の 1 世帯当たり 1 ヶ月平均の費目別支出割合では、岡山県と全国とで、ほぼ同じ動きをみせている。

費目別では、岡山県・全国とも、「食料」が最も高く、約 4 分の 1 を占めている。双方の比較では、「住居」は全国が高く、「交通・通信」や「その他の消費支出」は岡山県が高くなっている。

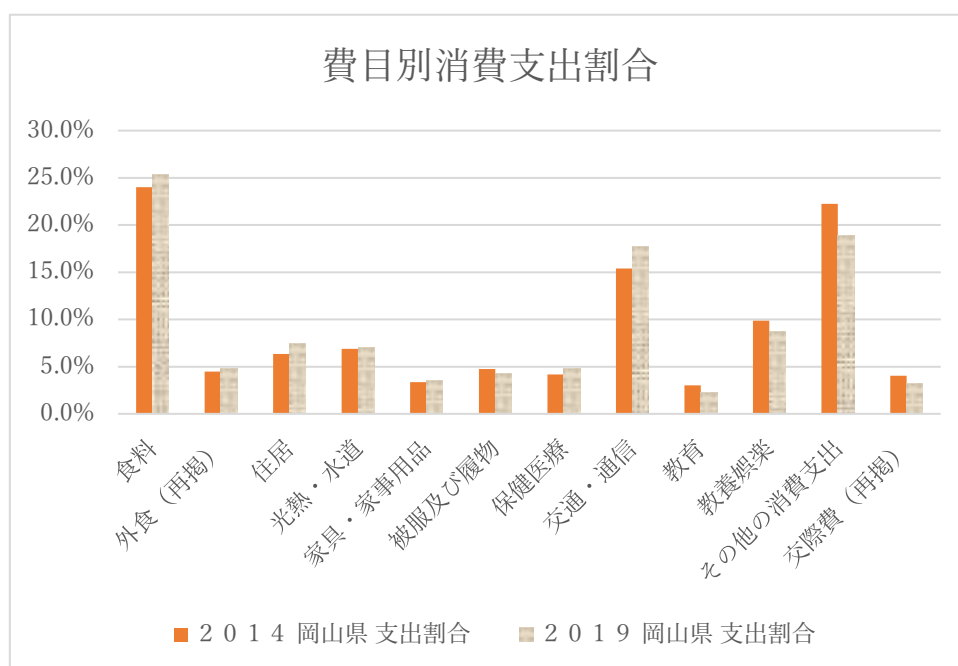


○2014年との比較

2014年との比較で、支出割合が上昇したのは、「交通・通信」、「食料」など。

岡山県における総世帯の1世帯当たり1ヶ月平均消費支出は、2019年は241,410円であった。2014年(258,261円)と比較すると、名目6.5%の減少となっている。

また、費目別割合を2014年と比較すると、「交通・通信」、「食料」、「住居」などが上昇しており、「その他の消費支出」、「教養娯楽」、「教育」などが低下している。

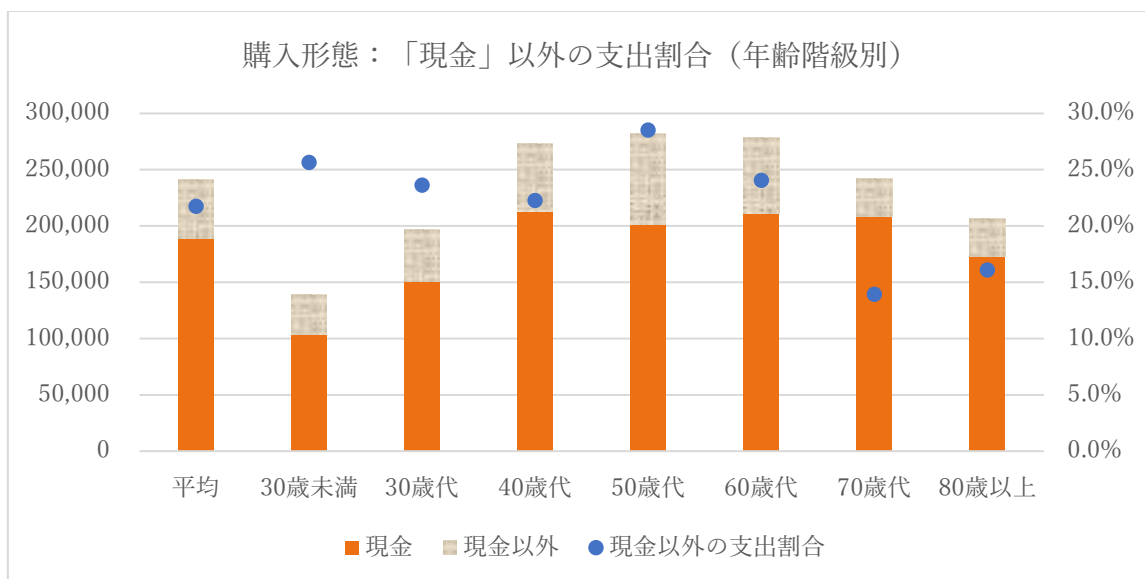
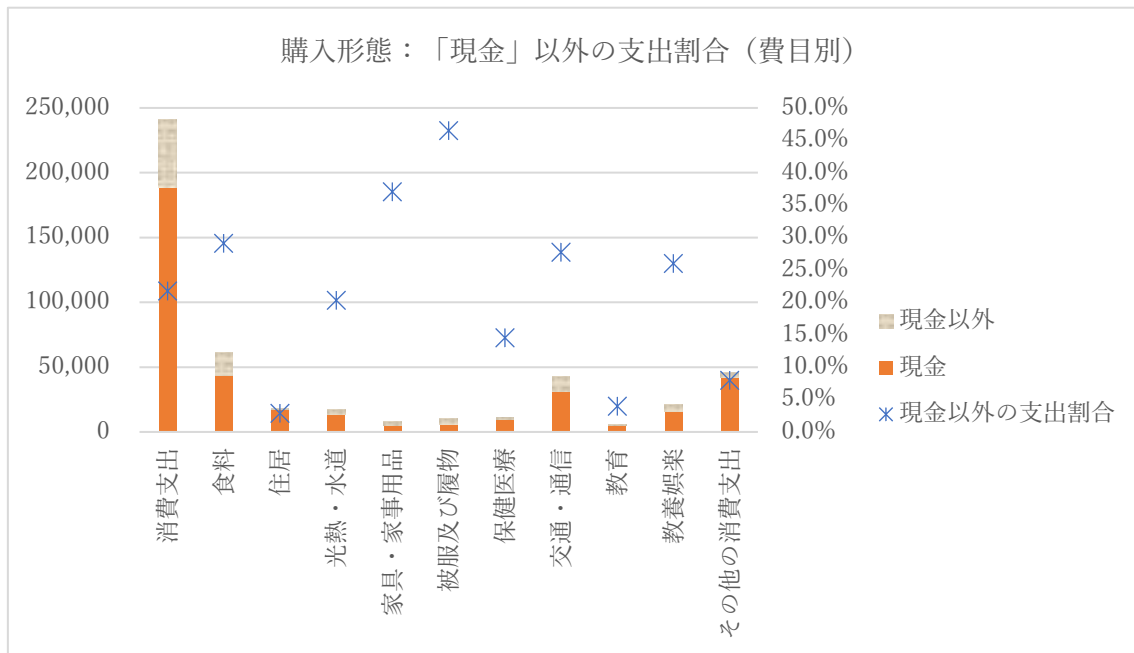


○現金以外の支出

「現金」以外の支出割合が高いのは、「被服及び履物」など。また、年齢階級別では、50歳代が最も高い。

岡山県における2019年の「現金」以外の支出割合は、「被服及び履物」が最も高く、続いて「家具・家事用品」、「食料」、「交通・通信」、「教養娯楽」が高くなっている。

年齢階級別の割合では、50歳代が最も高く、次に30歳未満が高くなっている。

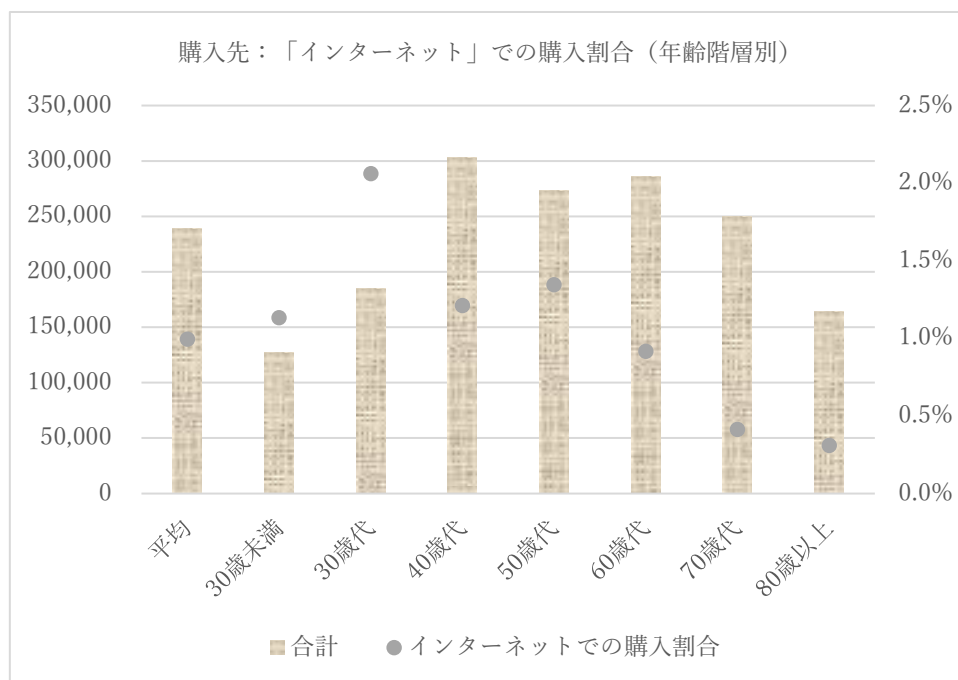
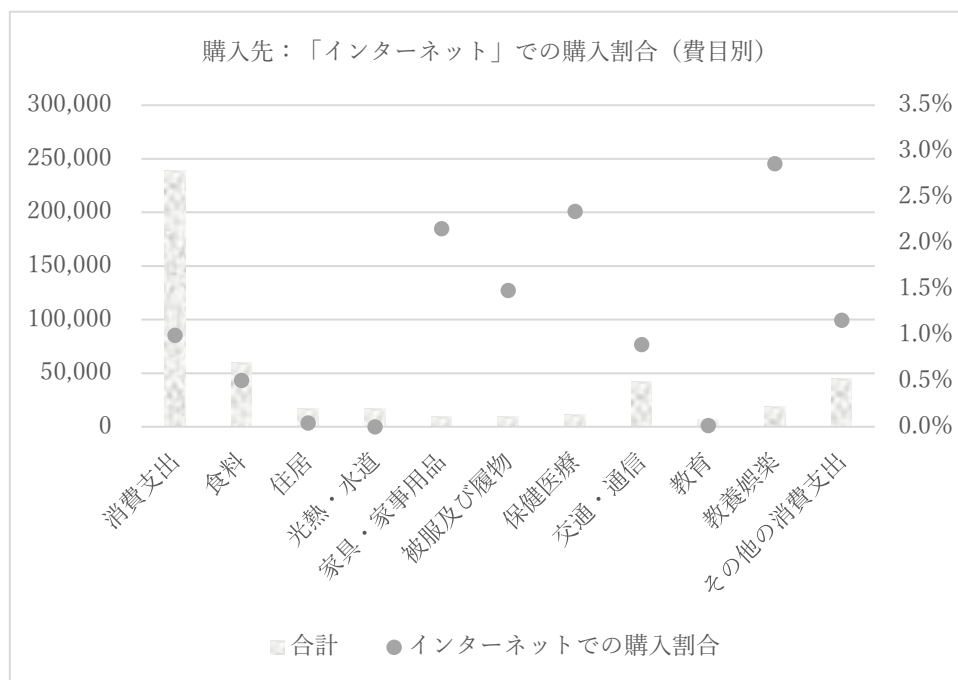


○インターネットでの購入割合

インターネットでの購入割合は「教養娯楽」が最も高く、30歳代が最も高い。

岡山県におけるインターネットでの購入割合は、「教養娯楽」が最も高く、続いて「保健医療」、「家具・家事用品」が高くなっている。

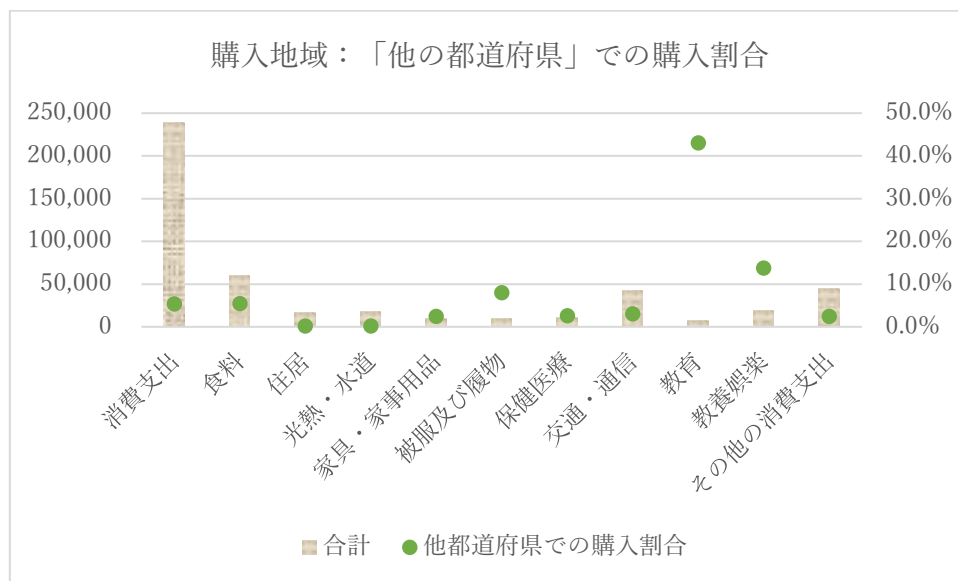
年齢階級別では、30歳代の購入割合が最も高い。



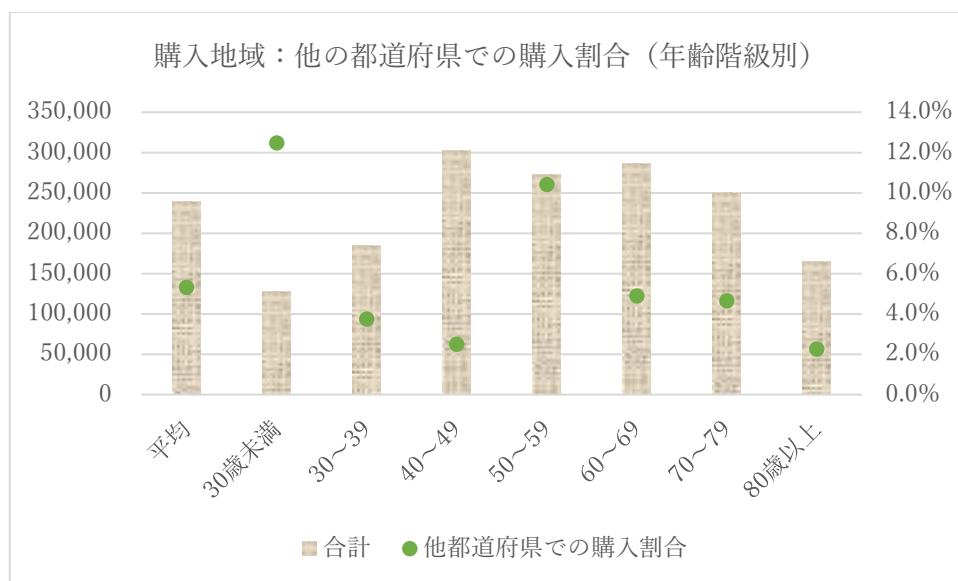
○他の都道府県での購入割合

他の都道府県での購入割合は、「教育」が最も高く、年齢階級別では30歳未満が最も高い。「教育」は50歳代が最も高い。

岡山県における「他の都道府県」での購入割合は、「教育」が単独トップとなっている。



また、年齢階級別では、30歳未満が最も高い。



30歳未満の費目別割合では、「被服及び履物」が最も高く、続いて「教養娯楽」、「交通・通信」、「食料」が高くなっている。

